



図書館だより

2月
NO.10

2010/02/04



建国記念の日ー2月11日ー ノートルダム学院小学校図書館

「建国をしのび、愛国心を養う」国民の祝日。明治時代には「紀元節」として祝われていましたが、1966年昭和41年に「建国記念の日」として国民の祝日に追加されました。この日を知るために日本の国の始まり、歴史を読んでみましょう。ところで「日本」という名はいつごろ定められたのでしょうか。「日本」という国号が定められたのは701年（大宝元年）で、「大宝律令」には正式な国号として記録されているそうです。それ以前には「大八州（おおやしま）」、「豊葦原瑞穂国（とよあしはらのみずほのくに）」、「葦原中国（あしはらのなかつくに）」などと呼んでいたことが「古事記」「日本書紀」に記録されているということです。やがて大和朝廷の力が大きくなるにつれて大八州の政治の中心地「やまと」がそのまま国の呼び名とされました。いっぽう中国が、わが国のことを「倭（わ）」と呼んでいたことは6年のみなさんなら知っていますね。「大宝律令」にある「日本」も初めのころは「やまと」とか「ひのもと」とか読まれていましたが、やがて漢字の知識が広まり、奈良時代からは「にほむ」と発音されるようになるのです。



「にほん」「にっぽん」という読み方になったのは室町時代に入ってからのことです。

ーねこの日ー2月22日ー



「222」がねこの鳴き声 「ニャン・ニャン・ニャン」と読めることから「猫の日制定委員会」が1987年（昭和62）に制定。ペットフード工業会が主催しています。みなさんがよく知っている「ねこ」。お話の主人公にもなっている「ねこ」ですが、日本に来たのはいつごろなのでしょう。「古事記」「日本書紀」「万葉集」などにはねこは登場しません。ねこが書物に登場するのは、平安時代の初め（822年ころ）の仏教説話集「日本霊異記」です。ネコの先祖はエジプトの野生ネコのリビアネコ。エジプト第五王朝時代（B.C.2494～2345年）の遺物の中に首輪をつけたネコの絵があって、これが飼いネコのもっとも古い記録とされています。中国では後漢（57年）以降に仏典をネズミから守るために、インドからつれてこられたのが始まりで、日本には、仏教伝来の552年以降だとされています。

「ねこの目・ねこ舌・ねこなで声・ねこかぶり」や「ねこがないとねずみが遊ぶ・ねこに小判・ねこの食い残し・ねこの首に鈴をつける・ねこの手も借りたい・ねこもしゃくしも」などねこに関わることはやことわざがたくさんあります。ほかにもどんなのを知っていますか。書き出してみましょう。

図書館には、「ねこ」の出てくる本がたくさんあります。たとえば・・・

- ・ぎんいろのねこ あまんきみこ ・長靴をはいたネコ シャルル・ペロー ・ねこの学校キム・ジンギョ
- ・ねこの根子さん あさのあつこ・黒ねこサンゴロウシリーズ 竹下文子 ・100万回生きたねこ 佐野洋子
- ・ちびねこグルのぼうけん アン・ピートリ ・人間になりたがった猫 ロイド・アリグザンダー
- ・ルドルフといっぱいあってな 斉藤洋・黒ねこの王子カーポネル パーバラ・スレイン ・ねこのポチ 岩本敏男
- ・いつもぶうたれネコ きむらゆういち・子ねこをつれてきたノラねこ メアリー・リトル などまだまだありますよ。